

報告

第26回OMEPP世界大会inスウェーデンに参加して

片山知子

世界大会のテーマはESD

OMEPP（世界幼児教育機構）世界大会が二〇一〇年八月、スウェーデン・イエテボリで開催されました。北欧での開催は一九九八年のコペンハーゲン大会以来の12年ぶりということでした。会場は、世界総裁のイングリッド・プラムリン氏が教鞭を執るイエテボリ大学でした。

イエテボリは古い要塞都市としての姿をとどめながら北欧の落ち着いた雰囲気とモダンな建築も合わさった緑の多い街でした。

世界大会のロゴマークは（緑と水に満ちた丸い地球を何人かの子どもが取り巻いて水をかけたり掃除

をしている絵）です。

大会テーマは「子ども—

挑戦する世界の市民」(Children — Citizens in a Challenged World)で、サブテーマの一つが「幼児期における持続可能な開発のための「教育」

(Education for Sustainable Development in Early Years) でした。

開会式セレモニーではロゴマークの絵についての子どもたちの声を紹介され、テーマにふさわしい始まりでした。

ESDに関する国際協同プロジェクトの報告では、



28か国、延べ9124人の子ども（一〜八歳）の聲が集まったこと、その取り組みによって子どもを聴くことの大切さが確認されたこと、それが子どものも最善の利益、子どもの権利を保障する成果となることが述べられました。その後のプログラムにも関連のセッションやシンポジウムがありました。

参加者は750人が世界各国から集まり、日本からは国外では最高の100名を超す参加者でした。

五つの基調講演は次のとおりです。

- 一、子ども―困難に直面している世界の市民たち
- 二、持続可能な社会における幼児教育の役割
- 三、子どもたちの声を聴く、差異と差異化
- 四、子ども、南欧の多様性と社会文化的変容
- 五、5つの文化の幼稚園、移住してきた子どもたちの受け入れ

第一の基調講演はジャン・エリーソン前国連大使／外務大臣によるものでした。

「ソマリアやコソボの紛争地帯での交渉ばかりし

ていた経験から言うと、今日のような子どもたちのための平和な集まりが、自分の出身地であるイエテボリで開催された事をうれしく思う」という言葉で始まったエリーソン外相の基調講演は、平和の祈りと子どもへの権利条約を、我々に強く再認識させるものでした。とりわけ、権利条約12条の意思表示の権利が如何に侵害されていることかと『Children is citizen in a challenged world』の呼びかけとともに、自分の両親が高卒であるといった自身の生い立ちを織り交ぜながら、切々と問いかけてきたのです。『Child is reminder』で終わった演説の締めくくりは、アンデルセン童話『裸の王様』を引用し、大人である我々が如何に愚かであるかを、子どもの存在そのものの賢さとの対比で語る、実に格調高い演説でした」（参加者の西脇二葉氏のOMEPニュースVol.43 No.2 P.5の報告を引用）。

プログラムは他にも多彩で、各国からの参加者が数人ずつのグループに分かれての保育施設見学、約180のセッション、シンポジウム、ポスター発表、

コングレスデザイナーなど、多くの学びと交流の得られた大会でした。

初めての参加体験から

私は今回O M E P日本委員会からの案内に興味をもち、この世界大会に北欧の保育施設見学も予定に組み込まれていたのが魅力で参加をいたしました。

八月八日、成田空港には66名が集合し、最初の訪問地コペンハーゲンに飛び立ちました。この後、多くの方々との交流と学びの時間が与えられました。世界大会に先駆けて、まずデンマークでの「森の幼稚園」見学ができることも参加者としては期待が大きかったと思います。「乳幼児のESD」ということも関連してくる環境教育や先駆的な取り組みの「森の幼稚園」を見学できる機会として、とても楽しかったです。

飛行機の中で出会った北欧の食文化

コペンハーゲンへ向けての飛行機内でのエピソード

ドです。私の隣は全く違う目的の旅行者の方でマイペースの空の旅でした。北欧の飛行機会社の機内食には期待していたとおり、トナカイのハムのサンドイッチがスナックとして出されました！

保育者の旺盛な好奇心は当然チャレンジするものという私は迷うことなくそれを受け取りました。すると、隣席の日本人ビジネスマン氏はトナカイと聞いたとたん、慌ててチーズタイプと交換してもらったのです。「トナカイはだめです」と。機内サービスの飲み物はたつぷり召し上がっていらっしやいました。そして、私には「すごいなあ、トナカイ、平気ですか？」といささか憐れみに満ちた話しかけがありました。

さて、実際の味はちよつと変わった風味かなと思える程度のハム、しかもとつても薄いハムが包んであるスティックサンド。味の評価は人それぞれという事です。

人魚姫に出会う

さて、飛行機はコペンハーゲンに到着です。あいにくの雨のコペンハーゲン。お迎えのバスで宿舍のホテルへ移動です。この時は上海万博開催中で、あの有名な人魚像は上海に出張中ということでした。ところがそのレプリカが二つあり、その一つが宿泊先のホテルのロビーにあるということでした。2分の1モデルでかわいらしい大きさでしたが、間近に見る人魚像は、はるばるコペンハーゲンに来たことを思わせるに十分なものでした。屋内のブロンズ像ですから実物より美しかったかもしれません。到着後の部屋割りも済み、夕食も済ませた後は、明日に備えて休息する方、せっかくだからと街に出かける元気な面々。小雨のやや肌寒い中、思い思いの第一夜でした。

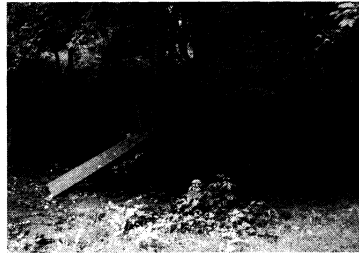
森の幼稚園で

森の幼稚園見学は参加者が3班に分けられてバス

でそれぞれの見学施設に向かいます。私はバスで30分のクグレネ(まつぼっくりの意味)保育園でした。北欧では幼児教育施設はすでに制度的には一体化され、実際の保育を見ると保育園的なものでもあるのです。しかしながらデンマークの「森の幼稚園」は日本に紹介された時にこの呼称が用いられ、現在も紹介される時は「森の幼稚園」が一般化しています。さて、そのクグレネ保育園はちょうどこの時期は夏期休暇中の最後の時期で、登園してくる子どもたちが少なく、新学期になると新たな入園児もいるようです。この日は13人の子どもと5人の保育者、体験入園中の一組の親子という保育でした。

市街地からバスで30分ほどの郊外、一戸建ての瀟洒な住宅が緑の林の中でたたずむ地域です。森の入口に小さな家があり、毎日子どもたちはそこに集まって森へ出掛けていきます。

森への道に入つてすぐは馬の牧場。そして一直線に続く道。周りはすっかり森になり、左右の針葉樹の林の奥に小さなトンネルのような出口がぼんやり

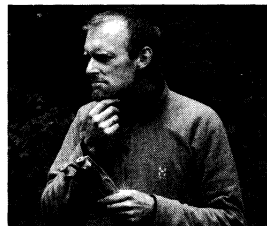


見えるのも探検心が刺激されます。主任の男性保育者の案内で15分ほど歩いていくと、ポツカリと森の中に明るい一角が現れました。山小屋が一軒、屋根のついた火の焚ける東屋、素朴な板張りのトイレが一つ。建物以外はファイ

ヤープレイス、ベンチとテーブル、木の枝にぶら下がったロープ、木を利用した滑り台等。どれも遊び心を刺激されるものばかり。



子どもたちはリュックサックにお弁当と飲み物を入れ、通います。服装はヤッケと同素材の長ズボンにブーツ。雨でも雪でも出掛けてきて遊ぶために万全の対策は大事なことでしょ。森の妖精を身近に感じ、寒ければ焚き火、暗ければランプ



という生活。五歳になると自分のナイフをもちょうことができ、木を削ることまで遊びにしてみよう保育。年齢の幼い子どもはナイフの代わりにリングゴの皮むきを器用に使って木の枝を削っ

ていました。傍らには本物のナタを使って子どもにちようど良い大きさに木片を作り出す保育者が静かに座っています。危険をすべて遠ざけるのではなく、「痛い思いをしたくないから気をつける」という考えで子どもを信頼する大人がいました。

どの保育者も声を荒げることなく静かに子どもに語りかける穏やかさ。ゆったりとした時間の流れの中には自由に遊ぶ時もあり、全員が集まって話を聞くこと、人に話をすること、歌やリズムを楽しむ





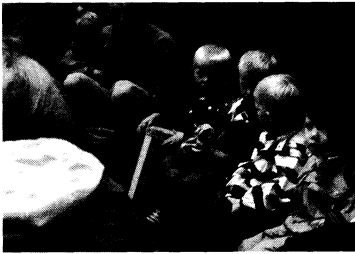
ことがバランス良くなされて
います。保育者は小さな太鼓
でリズムを叩き、伴奏無しで
次々と歌を歌い、リードもし
ます。

森の保育のねらいは「一人
前の人間を育てること」「体験
を通して人間としての生きる

力を育てること」「相手を尊重すること」と説明を受
けながら、明確な意志をもって子どもに向き合っ
ている保育者に力量の大きさを感じさせられました。

この見学では多くの感動や
共感を得ました。さらに、こ
のように自然との関係を直接
的に体験し、その中で生活す
るということがESDの一つ
なのではないかと思いました。

この思いを未来ある子ども
の生活に如何に反映していけ



るか大きな課題です。さらにア
ジアからのESDという発信も
できるのではないかと今回ス
ウェーデン世界大会に参加した
方々と語り合っております。ぜ
ひ、その時が来ますようお願い
しております。
(和泉短期大学)



▲バイキングの末裔です…

OMEPP日本委員会からのお知らせをいたします。

今年8月に開催予定でしたOMEPP日本委員会創
立40周年記念【アジア太平洋地域フォーラム】は、
このたびの東日本大震災の甚大な被災状況を鑑み中
止させていただくことになりました。OMEPP日本
委員会として復興の支援に取り組んで参ります。ど
うぞ、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

詳しくはOMEPP日本委員会のホームページをご
覧くださいませようあわせてお願い申し上げます。